

<div> <div><div>Gallery PARC</div></div> <div><div>Art Competition</div></div> <div><div>2019 #01_4F</div></div> </div>
<div><div><span></span></div></div> <div><span><b>キャンプができたらいいな。<i>I wish I could camp.</i></b></span></div>
<div> <div><div>坂口佳奈・二木詩織</div></div> <div><div>SAKAGUCHI KANA・FUTATSUGI SHIORI</div></div> </div>
<div> <div><div>2019年7月5日<span> </span><span> </span>◆<span> </span>—<span> </span>7月21日<span> </span><span> </span> <span> </span>日<span> </span>11:00 - 19:00</div></div> </div>
<div> <div><div>Gallery PARC<span> </span>[<span> </span>4階展示室～屋上<span> </span>]</div></div> </div>
<div> <div><div>協力:若林菜穂</div></div> </div>
<div></div>

<span></span>
<span></span>
2014年より毎年開催しているギャラリー・パルク主催による展覧会企画公募「Gallery PARC Art Competition」。6回目となる本年は、応募総数64プランから厳正な審査により採択された2名・1組による3つの展覧会を開催いたします。本展はその[#01]として、4階展示室で坂口佳奈・二木詩織による展覧会「キャンプができたらいいな。」を、2階展示室で加藤舞衣による個展「部屋と外」を同時開催するものです。また、7月26日から8月11日までの[#02]ではパルクの全フロアを会場に、洪亜沙による個展「アンバー・ランド」を開催いたします。
<div></div>

<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>

本展「キャンプができたらいいな。」は、坂口佳奈(さかぐち・かな)・二木詩織(ふたつき・しおり)によるもので、武蔵野美術大学 美術専攻油絵コースを修了した二人は、「旅・距離・時間をコンセプト」にしたインスタレーションを展開させています。

二人の住む東京から約450キロ離れた京都まで、新幹線で2時間、車で5～6時間、歩くと100時間以上の距離を、いろいろな方法で何度も旅をして、その道中で撮影した写真、収集したものや制作したものを、旅の合間に書き留めた『道中記』とともに、ギャラリーの4階から配置・構成しています。また、それは旅の道中のものばかりではなく、旅から帰った日常のエピソードに端を発したもののや、旅の体験を下敷きに制作した絵画や映像なども含まれています。本展には「キャンプができたらいいな。」と書いて出発した旅に紐づく記憶と記録が、ゆるやかな繋がりをもって並べられ、それは「どこからどこまでが旅」なのか分からないことと似ています。そうして並べたものやエピソードを想像すること、思い出すことで繋ぐことは、時間や距離を異にした、新たな旅ともなるのではないのでしょうか。

<p>時間と距離についての記録</p>
<p>これらは、私たちが東京から京都までを移動した道のりの記録である</p>

いくつかのルールを設定し、東京から京都までの距離(その距離を経ることでも何が起るのか)を考察した。

- 東京から京都を様々な方法を使って移動する
- 毎日、どんな1日だったのか記録をするため、『道中記』を書く
- 定点観測のように、なるべく休憩地点ではソフトクリームを食べる
- 個人的な視点を含め、目に飛び込んだ景色、または物体を撮影する

<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>

日常と非日常の反復を、記憶として留めることで、再びその旅路を往復することができる。

<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>

[二木] 時間と距離みたいなことを自身の制作の中で考えていて、今回京都で展示できることになって、距離もあるし面白そうだなと思って、東京から京都に徒歩とか、車とか新幹線とか夜行バスとか、いろんな方法で行ってみるという試みです。いろんな資料がいっぱいあって、それらにゆるやかな関連性を持たせてインスタレーションにしています。

- 日付とエピソードが書かれた紙は？
- [二木] 二人で『道中記』という日記のようなものをそれぞれ書いて、起きたことを記録していたのですが、別々に行動していた時に、同じような時間にトイレに行っていたりとか、同じものを見ていたりとか、そういう些細な面白さをピックアップしてます。
- [坂口] 『道中記』なんですけど、時間の流れや速さみたいなもの、今回なら車とか歩きとか、新幹線とか、色々な手段で京都にいるということを、速さという時間の違いで表せたかなと思うん

ですが、それは「動き」としての時間というか、それとは別に「記憶」でもまた時間の流れを再構成していて、展示でまたその旅の様子とか、時間の流れの様子を振り返る。自分たちでも、作りながら発見していくというか、作りながら思い出して行って、私と二木の記憶と時間の「場」みたいなものだと思っています。

[二木] どっちが書いてるとかも曖昧にしています。友達の名前とか急に出てくるし、お互いの彼氏の話もあったり。その場で起こったこともあれば、自分の生活の中で起こっていることが、道中で何か出てきたりもしたので。

<span>—</span>	スクリーンの地図は京都までの道のり？　点線と直線の違いは？
[二木]	緑の点線は車で木曽經由で行った時。オレンジの点々は一番時間をかけて歩いてきた時。直線は新幹線です。
<span>—</span>	このオレンジの丸がそれぞれの出発点ということなら、この合流地点は？
[二木]	湯河原です。そこで合流しました。

- 大きい丸は？
- [二木] 泊まったところとか重要な地点です。
- テーブルの写真は？
- [坂口] いっぱいある写真は、道中で私たちが連続で見たり、何回も見たものです。
- [二木] 局地的にいろんなものが集まっているエリアがあって。飛び出しの絵、恐竜のフィギアがごこの軒先にも置いてあるゾーンとか。住宅街なんですけど、近江八幡から京都の間。あとは旅の間で食べたものとか。あと季節的にピワがよく木になっていて、それが何回も目に入って。「あ、ピワの木だ」と写真を撮ってて、そしたら彦根あたりでピワみたいな遊具が見つかった。よくピワの実を見てなかったら、遊具を見てもピワと思わない。ピワに対する解像度が高くなっているから「ピワだ!」と思ったりとか。琵琶湖もピワだし。あと「つがい」も。一緒にいる鳩とかいっぱいみたり、屏風の絵になっていたり。平和堂の鳩とか。コメリとか。
- [坂口] つがいじゃないけど2つあるとか。

<span>—</span>	プロジェクターの映像は？
[二木]	これは6月1日に彦根にいたんですけど、その時にお茶屋さんに寄って休憩したらお店の人がお茶を廻して出してくれて、作法が何もわからなくて、自分も廻したほうがいいのか、と坂口さんに聞いたら、お店の人が廻してくれてたからいいんじゃない？と。そういうもんなんだなあ、と。
[坂口]	あとから調べたら、お茶碗の一番いい場所を見せるため、とわかって。じゃあ、お互いがいい場所を見せ合おうと。お互い飲まずに廻しあう。
<span>—</span>	後から撮った映像ということ？
[坂口]	そうです。
[二木]	二人とも廻して置いて、渡しても相手が廻してまた置いて。
[坂口]	誰も飲まない。
<span>—</span>	それでピワの木？
[坂口]	あまりに何度も見かけるので途中から意識して探すようになっていて。最初は私が気になっていたんですけど、

二木に話すといつしか一緒に意識するようになって。いつも手が届かない距離や場所にあって、もはや憧れに近かったピワが、彦根に着いた時に、たまたま手がとどく木になっていたので食べてみたら、あっさり執着が消えてしまっ。

[二木] けど、その木のすぐ近くの公園に、ピワに良く似た遊具があって。手に持っていたピワと、空中に浮いているようなピワがすごく重なって。「ピワ」っていう珍しいものがたまたま重なったことが面白くなって。

[坂口] 展示で、その一連の面白さを再現しようと、その遊具に似たものをハンズに電話したり、ネットで検索してたんですけど、見つからなくて。

[二木] そのうち「ピワのようなもの」を一生懸命に探している状況自体が面白くなってきて。なんか、ピワを模した遊具を模したようなものが、必要とも思えなくなってきて。

[坂口] で、そもそもピワの木を持ってきたので、それを置いています。

<span>—</span>	キング？
[二木]	これは名古屋城のあたりで見つけた自販機で買った飲み物。ペットボトル。
[坂口]	で、水筒がわりですずっと使っていて。
[二木]	ゲストハウスの冷蔵庫に入れてたので名前を書いています。
[坂口]	で、お茶入れてました。水筒として。

<span>—</span>	プロジェクターの映像は？
[二木]	これは6月1日に彦根にいたんですけど、その時にお茶屋さんに寄って休憩してたらお店の人がお茶を廻して出してくれて、作法が何もわからなくて、自分も廻したほうがいいのか、と坂口さんに聞いたら、お店の人が廻してくれてたからいいんじゃない？と。そういうもんなんだなあ、と。
[坂口]	あとから調べたら、お茶碗の一番いい場所を見せるため、とわかって。じゃあ、お互いがいい場所を見せ合おうと。お互い飲まずに廻しあう。
<span>—</span>	後から撮った映像ということ？
[坂口]	そうです。
[二木]	二人とも廻して置いて、渡しても相手が廻してまた置いて。
[坂口]	誰も飲まない。
<span>—</span>	琵琶湖の魚の本
[坂口]	道中であった事に関するアイテムを

実際に買って、それと同じように設置している。琵琶湖の魚の本は、泊まった宿泊施設に置いてあって、それを自分たちの部屋まで持って行ってずっと窓辺にディスプレイしていて。ただ、その時は内容はほとんど見ていなくて、ただ飾ってただけで。帰ってから買って、少し読んだけど。

[二木]	私はまだほとんど読んでないです。
<span>—</span>	ほしよりこの漫画
[坂口]	借りれるところで、実際に読んだ漫画です。
[二木]	私は上下巻を読んだんですけど、坂口さんはまだ上巻しか読んでなくて。それも結構おもしろいなと。だから上巻だけ。
<span>—</span>	カップラーメン
[坂口]	ケンカした話をしたことを『道中記』に書いて、それを展示しようと思った時、一番に思い出したのがカップラーメンで。その時、お互いがカップラーメンを向かい合って食べてたなあ。それくらいなんとなくな話で。

[二木] ただ、私はその時はケンカの話を坂口さんがしていたことは、あまり大きなことと捉えていなくて。よくある愚痴かと思ってたんです。ただ、坂口さんが書いた『道中記』を読んで、ケンカの話を人にしたということがとても重大なことだったんだと後で気づいてショックで。

[坂口] ただ、もちろん実物がなくて。展示しているカップラーメンは、搬入を手伝ってくれた若林さんがセブンイレブンのクジで当てたものです。

- [二木] それとあとで思い出したんですけど、私、その時カップスープを食べていて。坂口さんの話を聞いて、カップラーメンだと思い込んでいたんですけど、カップスープでした。
- 絵
- [坂口] 私の絵です。泊まったドミトリーから出発する時のエピソードがあるのですが、その時の様子を絵にしています。

— 神社の映像は？

[坂口]	関東に戻ってから撮ったもので、実際にあったことをもとにつくっています。清水寺にいったときに、私がお金を入れて、そういう時の作法がいまいちわからなくて、鳴らす前にお金を入れて、拍手して祈ってたら、隣にきた外
------	--

<span>—</span>	国人の人が鐘を鳴らそうと書いて。
[二木]	坂口さんが先に鐘を鳴らされたら、その人が10円あげたことになってしまうと。
[坂口]	それで焦ったという話をしています。
[二木]	それが印象的で。
[坂口]	じゃあ鳴らされる人の映像をとろうと。
[二木]	横取りされるところを

<span>—</span>	ところでよくお腹が痛くなりますね
[坂口]	二人ともよくお腹痛くなります。よく気持ち悪くもなります。
<span>—</span>	派手なシャツ
[坂口]	私たちの共通の友達である若林さんが京都にいて、泊まらせてもらって、帰る日にひとつエピソードがあって。
[二木]	私が派手なシャツを着ていたら、若林さんも朝、それにあわせて派手なシャツを着て出発してくれて。その時の若林さんのシャツです。
[坂口]	私はその時にはもう先に出発していて、そのシャツを見ていなくて、「派手なシャツ」としか知らなくて。初めて見ました。

<span>—</span>	歯
[二木]	旅行中ずっと親知らずが痛くて、坂口さんにも歯が痛いと言っと言ってる。そしたら坂口さんが「親知らずを抜くのハマった時期がある」って。
[坂口]	前に短期間にたくさん抜いた時があって、それがまったく痛くなくて、ちょっと気持ちよくて。
[二木]	その旅からの帰りに、近所の歯医者の前を通ったので、そのタイミングで予約して。実際に抜いた歯です。きれいに抜いてもらいました。

<span>—</span>	歯ブラシ
[二木]	若林さんの家に歯ブラシを忘れてしまった。
[坂口]	この入れ方がいいね。
<span>—</span>	屋上の倉庫の映像
[坂口]	木曾でキャンプした時、実際に魚を釣って、捌いた時の映像。
[二木]	この空間(屋上の倉庫)に血なまぐさい映像が合うなと思って編集したものです。

<span>—</span>	テント
[坂口]	魚の絵だったり、それに関連する写真だったりを置いています。テントは実際に使っていたものではなく借り物です。

C.V.

**坂口 佳奈**
**SAKAGUCHI KANA**

新しい景色を絵画で表現できないかと考え制作しています。私は、空間のずれや絵の具の重なりによって私たちが普段生活している現実とは異なる時間を表現できるかもしれないと考えています。なぜなら、それらは別々な時間を共有して存在していると思うからです。そのずれや重なりをきっかけにものごとを新しい目線で捉えもっと柔軟に世界と関わりを持ちたいと感じています。

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

1991年 熊本県生まれ
2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業
2017年 武蔵野美術大学造形研究科修士課程美術専攻油絵コース入学
2019年 武蔵野美術大学造形研究科修士課程美術専攻油絵コース卒業

2019 KISO PAINTINGS vol.3 夜明けの家(大錢屋 / やぶはら 長野)
-- 東京五美術大学連合卒業制作展(国立新美術館)
-- 武蔵野美術大学卒業・修了制作展(武蔵野美術大学 小平キャンパス)
2018 克服展(サンクトペテルブルク / ロシア)
-- Slide,Flip, and Turn (武蔵野美術大学図書館 中央大階段)
2017 武蔵野美術大学卒業・修了制作展(武蔵野美術大学 小平キャンパス)
-- 東京五美術大学連合卒業制作展(国立新美術館)
-- アタミアートウィーク 2017(ツイキレンタルスペース / 静岡)
-- 理化学研究所展示プロジェクト2017(理化学研究所・横浜キャンパス / 神奈川)
2016 Sound of Silence(武蔵野美術大学課外センター展示)
2015 GOLDE NAGE(武蔵野美術大学芸術祭)
2013 トリアグラム展(武蔵野美術大学芸術祭)

[受賞歴]

2017 武蔵野美術大学卒業制作展優秀賞

Q・A

**二木 詩織**
**FUTATSUGI SHIORI**

自身の体験をどう切り取るか、また編集するかというのが作品のテーマです。例えば友達と旅行に行ったことを思い出しながら地図を描くパフォーマンスをしたり、それを映像にしたりしています。その中で、自分しか知らない情報を作品に盛り込んだり説明を省いたりすることもあります。当然そうすると作者である私と観客の間に情報量の差が生まれます。最近、飼っている犬を見て、この犬には言葉が通じないんだと思って驚きました。この犬に何かを伝えることはできない。でも犬は撫でてほしそうにこちらを見てくることもあるしひざの上で寝ることもあって、その時私は犬の気持ちを察しようとしていたり思い込みで接します。「この犬に何かを伝えることはできない」けど言葉があるからといって人間同士はコミュニケーションを取れている、何かを伝えていと断言できるのでしょうか?お互いの情報量に差があることが当たり前なのだということを考慮し、観客と自分の間の距離を作品にしたいと考えています。

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科Bコース 袴田クラス 卒業

1993年 神奈川県生まれ
2017年 武蔵野美術大学 造形学部油絵学科Bコース 袴田クラス 卒業
2019年 武蔵野美術大学 造形研究科 修士課程美術専攻油絵コース 修了

2019 武蔵野美術大学卒業・修了制作展(武蔵野美術大学 小平キャンパス)
2017 青春スリーポイント計画 (Art Center Ongoing / 東京)
-- 武蔵野美術大学卒業・修了制作展(武蔵野美術大学 小平キャンパス)
2015 個人的な生活 緩やかな断絶(ギャラリーmonogram / 東京)
-- 変な話なんだけど(武蔵野美術大学 課外センター)
-- 私たちが偽りのない何かに出会うための方法(武蔵野美術大学)
-- 小東京☆銀河 vol.8 品出し(府中卸売センター / 東京)
2013 ヤマニキ展(武蔵野美術大学)

Q・A

—— プラン採択時のコメント

京都へ訪れるまでに起きる出来事がいつ、どうして作品となっていくのか制作することで考えることができればと思います。予想外なことが起こっても楽しみながら進めていきたいです。時間や距離のついでの作品を作ってみたいと思っているので、自分が住んでいる土地から約450キロも離れた京都で展示する機会を与えていただいてうれしいです。新幹線で2時間、車で5〜6時間、歩くと 100時間以上の距離です。いろんな手段で移動して作品を作りたいと思います。

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— 本公募に応募した理由について
坂口と二木、2人で展示を企画したいと考えていたことがきっかけでした。そのとき、たまたま友人にGallery PARCのコンペ情報を教えてもらいました。東京から京都までの道中記を作品にしてみたらどうかという話が持ち上がり、今回の公募の応募につながりました。

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— 展覧会コンセプトやテーマについて
旅、距離、時間をコンセプトの作品制作をしたいと考えています。私たちが住んでいる土地から京都に到着するまでの距離や道中も記録にとり作品として発表したいです。そのために、まず京都へ行くこと計画します。それに基づいて出発し、道中記をつけていきます。

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— 展覧会について

私たちの住んでいる土地から京都に到着するまでの距離や道中を記録し、旅、距離、時間を共有のコンセプトとして作品を発表しています。

—— 本展覧会(作品)について、目論見・挑戦などのポイントを教えてください

メディアの違う2人ですので初めての挑戦ばかりです。旅をコンセプトにすることもはじめてなので、作品にどのように反映され、どのように思考が変化するか楽しみです。想像すること

はできて、実際には多くのハプニングがあると思うので、それを楽しめたらと考えています。時間というコンセプトは2人の共通する問題でした。二木による「時間を行き来する映像とパフォーマンス」と坂口の描く「描くという手法によって時間を可視化する絵画」の作品が、今回の展示によって、お互いに刺激を受けながら新しい形で発表できたらと思います。

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— それぞれの現在のメディアはどのような理由で選択したのですか

[坂口] もともと絵を描くのが好きで、油絵を選択しました。大学に入り、少しの間だけインスタレーションをしていた時期もあったのですが、自分が楽しみながら作品を作れる方法は描くことだと自覚してからは油絵や水彩で作品を作っています。

[二木] 何かをしっかりと決めてから行動するのが苦手なので、どうにでもなるような手軽なものを作品に取り入れるようになりました。

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— 現在の問題意識や興味など

[坂口] 最近は生活と記憶をテーマに描くことで、それらの関係を結び合わせられないかと考えています。これまでは色や形、ものの存在について興味が高かったのですが、今はもっと身近な経験を元に、見過ごしている経験や景色を描いてみたいです。

[二木] 色々な時間が同時に流れていることに興味があります。例えば今回の作品でいうと、東京から京都まで1週間かけて旅をしている間にずっと歯が痛かったことなど。

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— 作品をつくることとは

[坂口] 特に特別なことはなく、例えば毎日誰かと話をしたり、本を読んだりすることと同じだと思っています。作品を見せることで自分の世界がプラスにもマイナスにも広がると思います。作品を見た人も、自分と同じように世界がプラス、マイナスどちらにも広がって、考えたり、対話するきっかけが生まれればいいなと思っています。

[二木] 作品を作るってどういうことなんだろ

う? と今回展示してみて改めて思いました。作品を見せることについても考え中。

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— 今後の活動の中で目指したい、取り組みたいことは

[坂口] 大学を卒業した今、積極的に作品を発表していきたいと考えています。自分の思考を深めるためにもインプットアウトプットは継続していくことが今の目標です。絵を描くことも大事なのですが、楽しむことやアイデアを大事にしていくことが活力だと思っているので、いろいろなことに興味を持てるよう常にアンテナを張っていこうと思っています。また、現在地方の小中、養護学校を中心にワークショップ活動も行っており、そちらも作品制作と共に継続していきたいです。ワークショップ活動は大学在学時の仲間と共に行っていて、土地や風土をテーマにしたワークショップなどを企画しています。その土地だから見つかるアートを、ワークショップを通して自分たちも参加者と一緒に探していけたらと考えています。

[二木] もっと長い時間を内包した作品を作りたいです。

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— これから自分の見たいものは

[坂口] 自分の想像以上のものや出来事に会いたいと思います。

[二木] 珍しい観葉植物

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— 現在の自身の問題点は

[坂口] 気分屋なところ

[二木] すぐに連絡を返せないところ

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— 何が美しいか

[坂口] 自分の家の猫

[二木] パフェ

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— 何が醜いか

[坂口] 無駄な怒り

[二木] 油ギトギトのラーメン

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— 何がかっこいいか

[坂口] 気持ちに余裕がある時

[二木] 毅然とした態度

—— 何がかっこわるいか

[坂口] 自分勝手な時

[二木] ヘコヘコしてる態度

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— 何が気持ちいいか

[坂口] 夏の夕方、早めに帰宅して入る風呂

[二木] 散歩(5月くらい)

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— 何が気持ち悪いか

[坂口] 歯磨きしないで寝た時

[二木] 汚い洗面所の床

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— 何を望んでいるか

[坂口] わくわくすること

[二木] 1年の間に良い気候の日がもっと増えること

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— 何を望まないか

[坂口] 贅沢

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— 何を求めているか

[坂口] 行動力と決断力

[二木] やりたいことを全部やること

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— 何を恐れているか

[坂口] 考えなくなること

[二木] 最近低気圧の日に頭痛があるので、それが悪化すること

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— 楽しいことは

[坂口] 集中している時

[二木] 好きな時に好きなところに出かける

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— 苦痛は

[坂口] 我慢しているとき

[二木] よくわからないことに拘束されてる時間

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— 行ってみたい場所は

[坂口] カナダのモントリオール植物園

[二木] タイ

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— やってみたいことは

[坂口] バンジージャンプ

[二木] バンジージャンプ

2017年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科A コース卒業

—— これから何をしたいか

[坂口] 気になることはなんでも挑戦したい

[二木] アボカドの水栽培